

平成27年度（2015年度）
[平成27年4月1日～平成28年3月31日]

事業報告

公益財団法人 マツダ財団

目 次

平成27年度(2015年度)事業報告 (総括)	1
I. 科学技術振興に関する活動の概要	2
I-1. 研究助成	2
1. 募集・応募・選出状況	2
2. 助成件数の推移	3
3. 第31回(2015年度)マツダ研究助成一覧	4
4. 第31回(2015年度)マツダ研究助成奨励賞一覧	5
I-2. 事業助成	6
1. 募集・応募・選出状況	6
2. 助成件数の推移	7
3. 第31回(2015年度)マツダ事業助成一覧	8
I-3. 科学わくわくプロジェクト	9
II. 青少年健全育成に関する活動の概要	11
II-1. 研究助成	11
1. 募集・応募・選出状況	11
2. 助成件数の推移	12
3. 第31回(2015年度)マツダ研究助成一覧	13
II-2. 市民活動支援	14
1. 募集・応募・選出状況	14
2. 支援件数の推移	15
3. 第31回(2015年度)マツダ市民活動支援一覧	16
II-3. 感動塾・みちくさ	17
II-4. スタートラインプロジェクト	18
II-5. 第34回講演会	20
II-6. 大学寄付講義の実施概要	21
II-7. その他の活動	22
III. 管理事項の概要	23
III-1. 役員等に関する事項	23
1. 平成28年3月31日現在の役員・評議員の名簿	23
2. 役員等の異動状況	23
III-2. 職員に関する事項	24
III-3. 理事会・評議員会等、主な活動事項	24
III-4. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	25
III-5. 登記に関する事項	25
III-6. 附属明細書	25

平成27年度(2015年度)事業報告(総括)

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益低下の影響を最小限に抑えるとともに、最大限の社会貢献に資するべく創意工夫をしました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独創性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を広島大学と連携して実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。体験を通して小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(公財)広島市文化財団と共同開催しました。講演会では、池上 彰氏を講師としてお招きし、「学び続ける力」と題してお話をいただきました。雨天にも拘らず、1,400名の聴講者があり、好評を得ました。大学講義では、安田女子大学にて単位互換「ボランティア活動」を行いました。また、2013年度よりNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で開始した「スタートラインプロジェクト」事業は、支援活動を更に充実させました。

科学技術振興関係

① 研究助成

機械、電子・情報、材料の3分野を対象に25件3,000万円の助成を行いました。さらに、このうち特に優れた研究4件に「マツダ研究助成奨励賞」として副賞50万円、計200万円を追加助成しました。(国内/公募)

② 事業助成

研究者等による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に15件200万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

③ 科学わくわくプロジェクト

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学と連携して実施しました。(連携事業/参加者公募)

青少年健全育成関係

① 研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究6件に計500万円の助成をしました。(国内/公募)

② 市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動30件に計800万円の支援をしました。(広島県・山口県/公募)

③ 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で、3施設で実施しました。(連携事業/参加者公募)

④ スタートラインプロジェクト

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実を支援する事業を実施しました。(連携事業/公募)

⑤ 講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、池上 彰氏を講師に迎え実施しました。

⑥ 大学寄付講義

安田女子大学にて、単位互換「ボランティア活動」の講義を行いました。

事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第31回(2015年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③材料の3分野に係わる先進的・独創的な研究。

(c) 募集方法

公募

(d) 助成金総額

3,000万円

(e) 助成件数

25件 (1件あたり120万円)

(f) 助成期間

1年または2年

(g) 募集期間

2015年4月20日～5月29日

(h) マツダ研究助成奨励賞

マツダ研究助成対象の中から特に優れた研究に対して授与する。

① 副賞(追加助成金)

50万円/件

② 追加助成金総額・件数

200万円、4件 (1件あたり50万円)

(2) 応募状況

締切りまでに合計416件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

・中部以東 230件(55%)

・関西以西 186件(45%)

(b) 分野別

・機械 93件(22%)

・電子・情報 96件(23%)

・材料 227件(55%)

(c) 若手研究者(40才以下)

257件(62%)

(3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月24日、25日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として25件、研究助成奨励賞候補として4件が選出され、第23回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成贈呈書の贈呈

2015年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移－科学技術振興関係－

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第31回) 2015年度	第30回 2014年度	第29回 2013年度
応募件数(件)	416	401	304
助成件数(件)	25	25	25
助成比率(%)	6.0	6.2	8.2
助成金総額(万円)	3,200	3,200	2,800

(地域別状況)

地域	2015年度		2014年度		2013年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	230	16	220	12	144	11
近畿(件)	96	4	79	5	78	6
中国・四国(件)	55	3	55	4	49	4
九州・沖縄(件)	35	2	47	4	33	4
合計(件)	416	25	401	25	304	25

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

分野	2015年度		2014年度		2013年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
機械(件)	93	6(4)	91	6(2)	75	6(5)
電子・情報(件)	96	6(3)	93	6(1)	70	6(2)
化学系材料(件)	124	7(6)	114	7(4)	85	7(4)
物理系材料(件)	103	6(3)	103	6(5)	74	6(5)
合計(件)	416	25(16)	401	25(12)	304	25(16)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時
()内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第31回(2015年度)マツダ研究助成一覧 ー科学技術振興関係ー

助成対象研究の概要は、以下のとおりです

◇印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは奨励賞受賞

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【機械】		
低温環境下において自立的に作動するマイクロ熱輸送デバイスを用いた実用化基盤技術の構築 ◇	麓 耕二 弘前大学大学院理工学研究科准教授	120
近年、信号機のLED化に伴い信号機からの発熱量が減少したため、容易に着雪が生じ、頻繁に視程不良の状況となることが報告されている。このような背景を踏まえて、本研究は積雪寒冷地における信号機への着氷雪防除を目的としている。具体的には、比較的高温となる信号機の電子基盤からの排熱を輸送・伝熱することで着雪防除に効果的な熱供給方法を探索する。本課題は、これまで申請者が取組んできたマイクロ熱輸送に関する基盤技術の研究成果を用いて、地域の実問題を解決する極めて重要かつ有用な研究である。		
太陽光反射面のパッシブ再生機能を実現するマイクロピラー光触媒層の開発 ◇	亀谷 雄樹 東京理科大学工学部助教	120
太陽光を建築物の壁面で反射することは熱マネジメントによる省エネルギー化を図る上で重要であるが、大気中を浮遊する粒子状物質(PM)、特に炭素系PMの付着による日射反射塗料の性能劣化が問題となっている。そこで本研究は、パッシブ再生機能を実現する“マイクロピラー光触媒層”を創製し、太陽光の光触媒層への到達経路を確保し、かつ固体粒子の反応で重要となる触媒表面との接触面積を増すことで、炭素系PMの酸化反応を促進する技術を提案し、その実証を行う。		
三相界線マイクロメニスカス挙動に基づくループヒートパイプ蒸発器の開発 ◇	西川原 理仁 豊橋技術科学大学大学院工学研究科助教	S 170
本研究は、パソコン、自動車など暮らしに身近な省エネ技術として応用が期待されるループヒートパイプ(LHP)の熱流動現象の解明、詳細設計理論の確立により、無電力高効率冷却技術および革新的熱輸送技術という熱工学におけるブレイクスルーを実現させるものである。特に具体的な目的は、LHPの最重要設計要素である蒸発器設計理論を構築することである。従来の2次元的な形状ではなく、3次元マイクログループを有する蒸発器における気液二相流の新たな課題を解決し、熱輸送能力を最大化することが本申請の目的である。		
超音速ガスパフ法を用いた燃料供給による深宇宙探査機用電気推進機の性能向上	桑原 大介 東京農工大学大学院工学研究院助教	120
深宇宙探査機用の次世代型長寿命電気推進機として開発中のヘリコンプラズマスラストの燃費・推力増加を目指し、ラバールノズルを用いた超音速ガスパフ法による燃料供給法の開発を行う。従来法では燃料は放電室内に均一供給されプラズマ生成が行われるが、超音速ガスパフ法ではプラズマ中心に集束燃料ガスを供給することでプラズマの放電室壁面損失低減およびプラズマ中心での燃料枯渇改善による燃費・推力向上が期待できる。本研究が目指すRFプラズマにおける燃料粒子空間分布の積極的制御は新規開拓分野といえる。		
光誘起マランゴニ回転流を利用した自己集積的なマイクロ粒子の配列に関する研究 ◇	名村 今日子 京都大学大学院工学研究科助教	120
本研究では、水中に分散したマイクロ粒子をマイクロ流路の中で自己集積的に配列したり再分散したりする技術を確立する。申請者らは、これまでにナノ構造薄膜の局所的な光熱特性を使って、マイクロ流路の中で急激なマランゴニ回転流を発生することに成功した。この回転流を使えば、流路の中に分散している粒子を、流路の底の方で運動させることができる。そこで、流路の底に凹凸を設け、より高度な粒子の動きの制御を試みる。研究成果は、流体中の生体分子などの分析や検査の小型化・省資源化に貢献する。		
回転傾斜露光を用いたマイクロニードルアレイの開発	高橋 英俊 東京大学大学院情報理工学系研究科特任助教	120
無痛での経皮薬物送達が可能注射針の実現のため、回転傾斜露光を用いたマイクロニードルアレイの新たな作製方法を提案する。透明基板上の円形パターンアレイをマスクとし、紫外線重合性を持つ生体適合材料に対して裏面から回転傾斜露光を行うことで、材料内に紫外線が常に照射される領域と一定回転区間紫外線が照射されない領域が存在し、材料内に露光量の違いが発生する。この露光量の違いによって硬化場所を選択的に制御し、円錐形状のマイクロニードルアレイを実現する。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【電子・情報】		
手書きした磁力線を自動採点するシステムの開発とその教育評価 ◇	天造 秀樹 香川高等専門学校講師	120
<p>学習者が手書きした磁力線が正解かどうかを画像認識技術を用いて採点するシステムを開発する。学習者は赤と青の二色の丸シールをA4用紙の任意の位置に貼り付けることで、正負の複数の磁荷を設定することができる。考えながら磁力線を描くことを繰り返すことで正確に電磁気現象を理解することができるようになる。これにより新しいインタラクティブな電磁場シミュレーション技術の発展性を学術分野に提案することができると考えている。本研究では、本採点手法の妥当性の検証と教育効果をアンケート等により分析する。</p>		
偏波及び多重散乱解析を用いた超分解能内部画像化レーダに関する研究	木寺 正平 電気通信大学 大学院情報理工学研究科准教授	120
<p>本研究課題では、超広帯域信号を用いた超波長分解能内部レーダ技術を開発する。UWBレーダ技術は、高い距離分解能(数mm級)を有し、誘電体内部透過性に優れ、従来の超音波・X線・MRI等の各種計測技術における問題点を回避する革新的イメージング技術として注目を集める。その応用範囲は乳癌検知等の非侵襲生体内モニタリング、壁・道路内部の各種非破壊計測等、多岐に亘る。本研究では申請者が独自に提案するイメージング原理を内部画像化へ拡張し、偏波・散乱周波数特性等の電波固有の特微量を有機的に統合することで、従来性能を凌駕する革新的な内部レーダセンサのための要素技術を開発する。</p>		
光ファイバーテラヘルツ光学変調器の開発	財津 慎一 九州大学大学院工学研究院准教授	S 170
<p>本研究提案は、これまでの光変調器における最大変調周波数を3桁以上拡張する技術を開発し、光科学に革新的なインパクトを与えることを目的とする。この目的を達成するために本研究では、微細構造中空光ファイバー中で励起された分子のコヒーレント運動に注目し、これを光波と相互作用させることによって、分子の運動周波数での光波の位相・振幅変調を実現する。この新しい原理を利用した「テラヘルツ分子光学変調器」を、これまでになく高周波数領域で光波変調を実現する新しいデバイスとして提案する。</p>		
光相関イメージング法による長時間観察可能な蛍光顕微鏡の開発	水谷 康弘 大阪大学工学研究科准教授	120
<p>細胞を生きたまま長時間観察が可能な蛍光顕微鏡は、病理解明や病原検出に必要とされている。そこで、微弱な光を検出することができる光相関イメージング法に着目した。光相関イメージング法は、高感度な光検出器を用いることができることと相関計算から観察像を得ることから非常に高感度な画像検出法として注目されている。しかし、実際に顕微鏡に応用された例はほとんどない。そこで、光相関型イメージング法を蛍光顕微鏡に組み合わせることで長時間観察可能な蛍光顕微鏡技術を確認し、その基本特性を明らかにする。</p>		
帯電液滴ビームを用いた有機無機複合材料の微細領域分析に関する研究 ◇	二宮 啓 山梨大学大学院総合研究部准教授	120
<p>量子ビームを利用する二次イオン質量分析などの表面分析技術はナノメートルレベルの微細領域を計測できることから、微細化の進む先端デバイスの発展に貢献してきた。しかしながら近年、有機物と無機物の積層構造や両者から構成されるハイブリッド材料など分析対象が複雑化するに伴い、これまでのビーム技術では分析が不可能な事案が増えている。本研究では水による帯電液滴という独自の新しいイオンビームを用いることにより、複雑な試料での微細領域分析への応用につなげる。</p>		
1つのコンバータで太陽電池と蓄電池の同時制御が可能な「3ポートコンバータ」の開発 ◇	鵜野 将年 茨城大学工学部准教授	120
<p>太陽光発電システムにおいて太陽電池パネルと蓄電池の2つの電源を1つの電力変換器(コンバータ)で同時に制御可能であり、且つ、システムの大幅な簡素化・低コスト化を実現する「3ポートコンバータ」の開発を行う。ある導出手順により導き出される多種多様な3ポートコンバータ回路方式の体系化・定量比較を行いつつ、3ポートコンバータに適した新たな制御手法の開発も行う。最終的には実機評価により3ポートコンバータならびに制御手法の検証を実施する。</p>		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【化学系材料】		
水素社会の実現に向けた高活性水分解光触媒の創製 ◇	藏重 亘 東京理科大学理学部助教	120
水素は燃やしても水になるだけであるため、エネルギー・環境問題が深刻になっている今日、クリーンなエネルギーとして注目されている。半導体光触媒により水と太陽光から水素を作り出す水分解反応はクリーンな水素製造手段として注目を集めている。光触媒材料の助触媒ナノ粒子(活性部位)の粒径微小化は、光触媒活性を向上させることが報告されている。本研究では、申請者らの金属ナノクラスター精密合成技術を駆使し、助触媒ナノ粒子の化学組成を厳密制御することで、高活性な水分解光触媒材料を創製する。		
強磁性元素含有ポリマーの開発と粒子制御技術への応用	桑折 道済 千葉大学大学院工学研究科准教授	S 170
既存の優れた材料と、磁石に応答する強磁性体を複合し、新たな機能磁性材料を作製する基盤の技術開発が求められている。本研究では、強磁性元素であるホルミウムを導入した新しい「強磁性元素含有ポリマー」の合成手法と、既存材料表面への「強磁性元素含有ポリマーブラシ」構築による無着色での磁性付与法を確立する。さらに、無着色での磁性付与法の利点をいかし、磁力による粒子制御技術を用いた「色調変化が可能な単色構造色材料」の創製を目指す。		
新規層状ケイ酸塩Hiroshima University Silicate (HUS)を用いた二酸化炭素吸蔵材料の開発 ◇	津野地 直 広島大学工学研究院助教	120
無機多孔体の代表であるゼオライトはそのナノレベルの規則的な結晶構造からもたらされる特性によって、工業材料として古くから幅広く用いられている結晶性アルミノケイ酸塩である。本研究では、現状のゼオライト合成を改善するための合理的な機能設計手法を提案する。申請者が合成に成功した新規層状ケイ酸塩HUSの構造を利用し、層状化合物層間での細孔構造および吸着能を設計することで、目的に応じたゼオライトの機能設計を行う。この材料設計によって得られた新素材を天然ガス中や工場排ガスなどの不純物であり、地球温暖化の原因にもなる二酸化炭素の除去へと応用する。		
界面の空間制御による新規酸化チタン微粒子材料の創製 ◇	岡田 洋平 東京農工大学大学院工学研究院助教	120
タンパク質などの生体分子の可逆的なリン酸化は極めて重要な生化学プロセスであり、医学や生命科学の分野において世界中で研究が進められている。しかしながらこれらの生体分子は非常に微量しか発現しておらず、構造解析を行なうための物質を得ることが課題となっている。本研究では酸化チタンが強いリン酸吸着能を示すことに着目し、これを基軸とした新規微粒子材料を開発する。特に有機・無機ハイブリッドの形成によって界面の空間を制御することによって、リン酸吸着に選択性を付与することを目指す。		
精密合成に基づく機能性高分子界面の構築: 血液適合性制御に向けた設計指針の提案 ◇	織田 ゆかり 九州大学大学院工学研究院特任助教	120
高分子界面における機能発現の理解とその自在制御を目指し、血液適合性高分子の精密合成を検討する。本研究では、一次構造の明確に規定されたポリビニルエーテル(PVE)が形成する特異な水界面に着目し、その分子設計と(PVE/水)界面で発現する血液適合性との相関を、界面近傍における分子鎖の凝集状態ならびにダイナミクスの観点から考察する。得られる結果を総括することで、界面における高分子の静的・動的構造制御を達成し、血液適合性材料の分子設計指針を提案することを目的とする。		
金属酸化物物性の精密コントロールを可能とする新規手法の開発 ◇	田村 正純 東北大学大学院工学研究科助教	120
酸化セリウムは触媒・工業化学において非常に重要な金属酸化物であり、その物性をコントロールする新たな手法の開発は必要不可欠である。これまでは主に第二成分を添加・導入することで物性コントロールが行われてきたが、第二成分が悪影響を及ぼす場合がある。本研究では、これまでの手法とは異なり、金属酸化物に圧縮・伸張ストレスをかけることで物性が大きく変化することに着目し、新たに酸化セリウムナノチューブを合成することで、物性をコントロールする新規手法の確立を目指す。		
非貴金属(ユビキタス)元素とRedox活性アミン配位子を含む非貴金属錯体を用いた室温光駆動型アルコール燃料電池デバイス設計 ◇	松本 剛 中央大学理工学部助教	120
本研究では、「非貴金属(ユビキタス)元素とRedox活性アミン配位子を含む非貴金属錯体を用いた室温光駆動型アルコール燃料電池デバイス設計」を遂行し、特に光反応を利用してアルコールからカルボン酸への光化学的選択酸化により効率的かつ選択的に多電子多プロトンを取り出す新しいシステム創製を目標とする。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【物理系材料】		
マルチスケール階層構造を用いた高効率SiGe熱電変換ナノ材料の開発 ◇	野村 政宏 東京大学生産技術研究所准教授	S 170
<p>持続可能なエネルギー社会の実現に貢献するスマート社会化に必要な不可欠なエネルギーハーベスタ用の高効率熱電変換ナノ材料の創製を目指す。材料には低環境負荷で低コストなSiGeを用い、ナノスケール熱伝導に特徴的なフォノン輸送の物理的理解に基づいて高性能化が可能なマルチスケール階層構造を提案する。ポイントは、粒子描像で記述される従来法に上乘せして波動的性質までを考慮して人工結晶構造を導入する点である。広周波数領域に分布するフォノンの輸送を全域で抑制することで確実な性能向上が期待できる。</p>		
2次元超伝導物質を用いた高効率スピン変換とその制御	新見 康洋 大阪大学大学院理学研究科准教授	120
<p>スピン角運動量の流れ「スピン流」を用いたデバイスは、電荷の流れを伴わないため、ジュール熱を発生せず、低消費電力に貢献できる。しかし現状ではまだスピン流の生成・検出効率は小さく、従来型のデバイスに劣っている。本研究課題では超伝導転移する2次元原子層物質を用いて、この生成・検出効率を劇的に向上させる。2次元物質を用いる最大の利点は、電界で変換効率や超伝導体転移温度が制御できる点にある。研究課題が達成されることで、例えば超高感度磁気センサーに応用できる。</p>		
カーボンナノチューブ内包強磁性金属ナノワイヤの合金化による磁気特性制御 ◇	佐藤 英樹 三重大学大学院工学研究科准教授	120
<p>強磁性金属ナノワイヤを内包したカーボンナノチューブ(CNT)は、その高アスペクト比形状に起因する磁気異方性により、極めて高い保磁力を発現する。CNTに内包される強磁性金属を合金化し、その結晶構造を制御することができれば、その保磁力はさらに向上し、希土類元素を用いずに強力な磁石を作製できる可能性がある。本研究では、複数原料を導入可能な化学気相成長装置を用いることで、従来困難であったCNTへの強磁性合金ナノワイヤの内包を実現、保磁力の大幅な向上を目指す。</p>		
全固体エレクトロクロミック薄膜トランジスタの開発	片瀬 貴義 北海道大学電子科学研究所助教	120
<p>色調と抵抗変化を同時に変調可能な全固体エレクトロクロミック薄膜トランジスタの開発を目的とする。水を含んだナノ多孔質ガラスをゲート絶縁体とする水電気分解トランジスタを用いて、アモルファスWO₃薄膜にプロトン(H⁺)を脱挿入し、室温で電氣的に、金属-絶縁体変化とエレクトロクロミズムを同時に自在変調する。全て室温プロセスでガラス基板に実現し、調光機能とメモリー機能を兼ね備えた、新しい光・電子スマートデバイスを実証する。</p>		
高度配列カーボンナノチューブと樹脂を複合化した高電気・熱伝導プラスチック開発 ◇	井上 翼 静岡大学大学院総合科学技術研究科准教授	120
<p>長さ1mmを超える長尺のカーボンナノチューブ(CNT)を一方方向に配列させたCNTシートを樹脂と複合化し、電気と熱が流れるプラスチック材料を開発する。独自の紡績性CNTから紡ぎ出したCNT長繊維を積層して得られるCNTシートは、すべてのCNTが同じ方向に配列しているため、きわめて高い電気伝導特性と熱伝導特性を呈する。そのCNTシートを樹脂シートとミックスし、ハンドリング・加工性の高いCNT樹脂複合シートを創出する。触ると“ひんやり”する高電気・熱伝導プラスチックを開発する。</p>		
低温成長InGaAsの固相エピタキシー技術の開拓	富永 依里子 広島大学大学院先端物質科学研究科助教	120
<p>本研究では、GaAs系III-V族半導体の固相エピタキシー成長技術を世界に先駆けて確立する。当該技術は、180℃以下の低温で成長したアモルファスGaAs系半導体を400℃以上の高温で熱処理することにより結晶化するというものであり、GaAs系半導体の従来よりも低コストかつ簡便な結晶成長技術を実現することを目的とする。テラヘルツ波発生検出素子や電子デバイスと光学デバイスの両方の利点を併せ持った集積回路用エピタキシャル層、薄膜トランジスタの実現を最終目的とし、その足掛かりとなる結晶成長技術を開拓する。</p>		
合計	25件	3,200万円

第31回(2015年度)マツダ研究助成奨励賞一覧 — 科学技術振興関係 —

マツダ研究助成奨励賞は、マツダ財団設立30周年を記念して2014年度より新設されました。科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした4件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。

(註) 研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	三相界線マイクロメニスカス挙動に基づくループヒートパイプ蒸発器の開発	西川原 理仁 豊橋技術科学大学大学院工学研究科助教
<p>本研究は、毛細管力を駆動源とするループヒートパイプを用い、蒸発器の三次元マイクログループ内の気液挙動を可視化し、これを自ら開発した三次元多孔体内気液二相熱流動解析に適用することで、高精度な蒸発器設計理論を構築する。これによって、応用範囲の広い無電力高効率熱輸送技術を低コストで実現することが期待でき、その高い技術内容に対して、奨励賞を贈呈する。</p>		
電子・情報	光ファイバーテラヘルツ光学変調器の開発	財津 慎一 九州大学大学院工学研究院准教授
<p>本研究は、微細構造中空光ファイバー中で励起された分子のコヒーレント運動に注目し、これを光波と相互作用させることによって、分子の運動周波数での光波の位相・振幅変調を実現する「光ファイバーテラヘルツ光学変調器」を提案するものである。これによって、光変調器における最大変調周波数を3桁以上拡張することが期待でき、その「光の特性を操る」技術の高い革新性に対して、奨励賞を贈呈する。</p>		
化学系材料	強磁性元素含有ポリマーの開発と粒子制御技術への応用	桑折 道済 千葉大学大学院工学研究科准教授
<p>本研究は、既存の優れた材料と磁石に応答する強磁性体を複合し、新たな機能磁性材料を創成する技術開発であり、磁力による粒子制御技術を用いた「色調変化が可能な単色構造色材料」の創製を目指したものである。これにより、外部磁力変化による波長選択的光導波路の開発や、磁力により色調可変な色材開発など多岐に渡る分野での応用が期待でき、その高い技術内容に対して、奨励賞を贈呈する。</p>		
物理系材料	マルチスケール階層構造を用いた高効率SiGe熱電変換ナノ材料の開発	野村 政宏 東京大学生産技術研究所准教授
<p>本研究は、従来法にフォノンニクスの手法を上乗せし独自に考案したマルチスケール階層構造と半導体ナノ加工技術により、低環境負荷で高性能かつ安価なSiGe材料を高効率熱電変換材料に昇華させるものである。これにより、熱電変換効率の向上だけでなく、高環境負荷・希少材料からの脱却も期待でき、その独創性と先進性の高い研究内容に対して、奨励賞を贈呈する。</p>		

I - 2. 事業助成

1. 募集・応募・選出状況

第31回（2015年度）は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等に属する研究者及び民間の非営利団体が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する事業・研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

(b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校、民間の非営利団体に所属し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2015年6月から2016年5月に実施される

- ・ 「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法	公募
(d) 対象地域	中国地方
(e) 助成金総額	200万円
(f) 助成件数	10～15件
(g) 1件当たり助成金額	10～20万円
(h) 助成期間	2015年6月から2016年5月
(i) 募集期間	2015年4月1日～5月8日

(2) 応募状況

本年度は、29件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・鳥取県 0件	・広島県 8件
	・島根県 11件	・山口県 7件
	・岡山県 3件	
(b) 分野別	(1) 体験事業の開催	27件
	(2) 研究会等の開催	0件
	(3) 成果出版物の発刊・教材等の試作	1件
	(4) その他	1件
(c) 若手研究者(40才以下)		11件(38%)

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会(5月22日)において慎重に審査された結果、助成候補として15件が選出され、第21回理事会(6月3日開催)において報告されました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第31回) 2015年度	第30回 2014年度	第29回 2013年度
応募件数 (件)	29	30	27
助成件数 (件)	15	15	10
助成比率 (%)	52	50	37
助成金総額 (万円)	200	200	100

(地域別状況)

地 域	2015年度		2014年度		2013年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
鳥 取 県 (件)	0	0	1	1	0	0
島 根 県 (件)	11	2	11	2	10	1
岡 山 県 (件)	3	2	3	1	4	1
広 島 県 (件)	8	7	8	7	5	4
山 口 県 (件)	7	4	7	4	8	4
合 計 (件)	29	15	30	15	27	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分 野	2015年度		2014年度		2013年度	
	件数	助成件数	件数	助成件数	件数	助成件数
(1) 体験事業の開催 (件)	27	15	29	15	26	10
(2) 研究会等の開催 (件)	0	0	0	0	0	0
(3) 成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	1	0	0	0	1	0
(4) その他 (件)	1	0	1	0	0	0
合 計 (件)	29	15	30	15	27	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

3. 第31回 (2015年度) マツダ事業助成一覧 —科学技術振興関係—

事業名 ([]内は小・中・高生の参加者数)	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
岡山大学ジュニア公開講座「岡大ライス博士」 参加者(総人数)39名 [内、20名]	岡山市	齊藤 邦行 岡山大学環境生命科学研究科教授	2015.6.20 ~ 11.28	15
LEDのイルミネーションの動きをプログラムで作ってみよう 参加者(総人数)12名 [内、10名]	東広島市	岡 正人 近畿大学工学部ロボティクス学科長 教授	2015.12.19	12
高校生を対象とした瀬戸内海の生物多様性を学ぶ体験型実習 参加者(総人数)18名 [内、16名]	竹原市	富川 光 広島大学教育学研究科准教授	2015.7.18 ~ 7.20	10
小学校教諭を主対象とした科学実験教室の開催、及び教材開発に関するサポートの提供 参加者(総人数)20名 [内、18名]	三次市	上月 具挙 広島国際大学工学部講師	2015.8.18 ~ 2016.3.31	15
地域発・課題探求型授業「インキュベーションワーク」と連携したサイエンスショーと科学・工作教室 参加者(総人数)647名 [内、400名]	呉市	山脇 正雄 呉工業高等専門学校協働研究センター長	2015.6.27 ~ 12.13	15
バイオ・キッズ in BINGO(備後)'15 — 福山大学生命工学部バイオサイエンス公開実験— 参加者(総人数)200名 [内、140名]	福山市	井ノ内 直良 福山大学生命工学部長 教授	2015.7.25	10
第六回 岡山県奈義町アニメとエコの街づくり忍者学校 参加者(総人数)20名 [内、10名]	岡山県勝田郡	児玉 由美子 岡山県立大学デザイン学部准教授	2015.9.5 ~ 2016.3.31	14
ロボカップジュニア技術講習会(体験会から次のステップへ) 参加者(総人数)28名 [内、28名] 講演:4	広島市	山野 真一 ロボカップジュニアジャパン広島代表者	2015.7.26 ~ 11.29	15
広島国際大学保健医療学部 子ども向け科学体験講座 参加者(総人数)800名 [内、400名] 講演:11	東広島市 呉市	向田 一郎 広島国際大学保健医療学部教授	2015.7.19 ~ 2016.3.20	14
ボンボン船をつくろう!! 参加者(総人数)57名 [内、7名]	山口県大島郡	角田 哲也 大島商船高等専門学校教授	2015.6.13 ~ 11.3	10
子供理科体験教室～電気を作って遊ぼう～ 参加者(総人数)800名 [内、800名]	山口市	岡本 昌幸 宇部工業高等専門学校准教授	2015.8.1 ~ 8.2	15
サイエンスアカデミー2015 参加者(総人数)5309名 [内、随時工作 2569名]	防府市	寺田 勉 防府市青少年科学館館長	2015.7.18 ~ 8.2	20
山口大学理学部サイエンスワールド2015 参加者(総人数)1034名 [内、600名]	山口市	脇田 浩二 山口大学大学院理工学研究科教授	2015.10.18	15
作って直して二足歩行! ～段ボール二足歩行ロボットを作って研究しよう!～ 参加者(総人数)110名 [内、55名]	松江市	土師 貴史 松江工業高等専門学校助教	2015.7.1 ~ 12.30	10
センサー付きミニカーを作ろう! ～うまくコースを走れるかな?～ 参加者(総人数)84名 [内、42名]	松江市	衣笠 保智 松江工業高等専門学校准教授	2015.7.1 ~ 9.30	10
合 計		15件		200万円

I-3. 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取り組むブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

(2) 連携先

広島大学科学わくわくプロジェクト研究センター

研究代表者：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授

(3) 主要事業

- ① サイエンスレクチャー（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

第1回：2015年7月13日 第5校時 開催（県立世羅高等学校）

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授
- ・テーマ：「月の公転と位相」、高校2年生40名

第2回：2015年9月7日 第4校時 開催（県立呉宮原高等学校2学年）

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授
- ・テーマ：「月の公転と位相」、高校2年生（40名）

第3回：2015年9月7日 第5校時 開催（県立呉宮原高等学校3学年）

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授
- ・テーマ：「土砂災害発生のしくみ」、高校3年生（40名）

第4回：2015年12月15日 第5校時 開催（県立呉宮原高等学校2学年）

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授
- ・テーマ：「流れる水の働きと災害」、高校2年生（40名）

第5回：2015年12月15日 第6校時 開催（県立呉宮原高等学校3学年）

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授
- ・テーマ：「流れる水の働きと災害」、高校3年生（40名）

第6回：2016年1月20日 第2校時、第3・4校時 開催（県立呉宮原高等学校2・3学年）

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授
- ・テーマ：「放射能・放射線」、高校生対象（40名×2）

- ② ジュニア科学塾 ～年間テーマ「数と量から探る自然のメカニズム」

第1回：2015年5月24日 8：30～13：00 開催（広島大学大学院教育学研究科）

- ・講師：広島大学大学院 岩崎 秀樹 名誉教授
- ・テーマ：「『測る』を科学する」（数学分野）、中学生対象（23名）

第2回：2015年6月15日 9：00～13：00 開催（広島大学大学院教育学研究科）

- ・講 師：広島大学大学院教育学研究科 梅田 貴士 准教授
- ・テーマ：「量子論に現れる粒子と波の二重性」（物理分野）、中学生対象（22名）

第3回：2015年8月19日 13:00～16:00 開催（マツダ株式会社）

- ・講 師：マツダ（株）技術研究所 水戸部 典朗氏・今井 一雄氏
（公財）マツダ財団 魚谷 滋己氏・佛圓 哲朗氏
- ・テーマ：「燃焼」（物理分野）、中学生対象（21名）

第4回：2015年11月22日 9:00～13:00 開催（広島大学大学院教育学研究科）

- ・講 師：広島大学大学院教育学研究科 網本 貴一 准教授
- ・テーマ：「数値で読み解く状態変化」（化学分野）、中学生対象（21名）

第5回：2015年12月20日 9:00～13:00 開催（広島大学大学院教育学研究科）

- ・講 師：広島大学大学院教育学研究科 富川 光 准教授
- ・テーマ：「エビの形態と分類」（生物分野）、中学生対象（21名）

第6回及び閉講式：2016年2月14日開催（オプション講義）

- ・講 師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授・吉富 健一 准教授
- ・テーマ：「星の光と天気図」、中学生対象（22名）

③ 小学校理科ひろば：

- ・講 師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授 他
- ・テーマ：授業実践講座または模擬授業
- ・今年度実施：広島市内・広島県内の小学校 22校59学級（山口県1校あり）
広島市教育委員会と連携する（実施校は、広島市教育委員会が希望校を募り、
その後の調整と協議によって選定する）。
学校から依頼があれば、可能な範囲でそれに応じる。

(4) 実施額 300万円

Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

Ⅱ-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第31回(2015年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるをえません。今日生涯の各段階において、人間形成上あるいは社会生活上、絶えず自ら学習することの必要が叫ばれ、そのための学習基盤の整備充実を進めることが求められておりますが、中でも青少年段階におけるそれは重要であると考えます。

こうした青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、その一助として費用の一部もしくは全部を助成します。

(b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野：①青少年をとりまく環境 ②コミュニティづくり ③ボランティア育成 ④科学体験

⑤前各号に類する分野

(c) 募集方法	公募
(d) 助成金総額	500万円
(e) 助成件数	5～6件
(f) 助成期間	1年または2年
(g) 募集期間	2015年4月20日～6月30日

(2) 応募状況

締め切りまでに27件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	13件(48%)
	・関西以西	14件(52%)
(b) 分野別	・青少年をとりまく環境	21件(78%)
	・コミュニティづくり	0件(0%)
	・ボランティア育成	0件(0%)
	・科学体験	3件(11%)
	・前各号に類する分野	3件(11%)

(3) 助成対象の選出

選考委員会(7月31日)において慎重審議の結果、助成候補として6件が選出され、第23回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成金贈呈書の贈呈

2015年10月に申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第31回) 2015年度	第30回 2014年度	第29回 2013年度
応募件数(件)	27	36	26
助成件数(件)	6	5	5
助成比率(%)	22	14	19
助成金総額(万円)	500	400	400

(地域別状況)

地域	2015年度		2014年度		2013年度	
中部以東(件)	13	5	15	2	14	3
近畿(件)	4	0	6	1	7	1
中国・四国(件)	7	1	11	1	4	1
九州・沖縄(件)	3	0	4	1	1	0
合計(件)	27	6	36	5	26	5

(左側数字:応募件数, 右側数字:助成件数)

(分野別状況)

分野	2015年度		2014年度		2013年度	
青少年をとりまく環境(件)	21	4	21	3	15	5
コミュニティづくり(件)	0	0	2	1	2	0
ボランティア育成(件)	0	0	2	0	2	0
科学体験(件)	3	1	6	0	5	0
前各号に類する分野(件)	3	1	5	1	2	0
合計(件)	27	6	36	5	26	5

(左側数字:応募件数、右側数字:助成件数、分類は審査時)

3. 第31回(2015年度) マツダ研究助成一覧 – 青少年健全育成関係 –

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
<p>非行や発達障害等の困難を有する青少年の立ち直りと地域移行支援に関する調査研究</p> <p>非行や問題行動に関して、しばしば発達障害との関係性が挙げられている。発達障害やそれに類似した発達困難を抱えて「困っている」非行少年に対しては、少年院等の施設だけでなく、家庭や地域・学校において立ち直りのための発達支援と継続的な地域移行支援が不可欠である。本研究では、非行や発達障害等の困難を有する本人・当事者の立ち直りに関する調査と少年鑑別所・保護観察所・更生保護施設等の職員調査を通して、非行少年の立ち直りに必要な発達支援と地域移行支援の課題を明らかにしていく。</p>	<p>内藤 千尋 白梅学園大学子ども学部助教</p>	80
<p>「子どもの最貧国日本」におけるShift-Persist Strategyの有効性についての検証</p> <p>「子どもの最貧国・日本」というフレーズがある(山野, 2008; 山野, 2014)。これは、経済的に豊かな社会である日本において、子どもが貧困に苦しみ、子どもの心身の発達が阻害されている現状を指したものである。世界初の超高齢社会を迎えた日本において(内閣府, 2011), 子どもの将来に影響を及ぼす貧困は看過できない問題である。本申請課題では子どもの貧困に対する「Shift-Persist Strategy」の有効性を明らかにすることを通して、今を生きる子どもたちにどのようなキャリア教育を行っていくべきか、その指針を提供することを目指す。</p>	<p>中島 健一郎 広島大学大学院教育学研究科講師</p>	90
<p>子どもの社会性を育むための社会化エージェント資源モデルの検討: 家庭・地域・学校の相互連携に注目して</p> <p>本研究は、養育者、地域住民、教師、友人といった子どもの社会化を担う人たちが、子どもの社会性をいかにしてうながすのかを解明し、社会性に欠ける子どもへの教育政策的提言を目指すものである。とくに、(a) 子どもの周りを取り巻く人々の相互連携と社会性との関連、(b) 子どもを取り巻く人々が社会性の発達の变化に与える影響の2点に注目する。小学生、中学生、高校生それぞれ500名に対して、4時点にわたる質問紙調査を行う。調査結果に基づき、学術論文の執筆、ならびに学校や地域に対するフィードバックを行う。</p>	<p>浅野 良輔 浜松医科大学子どもこころの発達研究センター特任助教</p>	80
<p>地方自治体とNPOの協働事業による外国人支援の可能性に関する調査研究—神奈川県大和市「放課後寺子屋やまと」における活動を通して—</p> <p>本研究は、地方自治体とNPOが協働して外国人支援事業のあり方とその可能性を検討するものである。具体的には、①神奈川県大和市教育委員会主催で、市内の公立小学校で実施されている学習支援事業「放課後寺子屋やまと」に参加する外国人児童に対して、在日外国人スタッフを派遣して学習支援を行うこと、②そこに見いだされる課題を、学校や寺子屋をコーディネートしている教育委員会と共有すること、③三者間で効果的な支援を探ること、以上3点を通して、外国人児童の支援を行う事業の効果を検討するものである。</p>	<p>チューブ サラーン 日本大学大学院人文科学研究科研究員</p>	80
<p>これからの「持続可能な開発」を担う健全な青少年を育成するための環境学習ゲーム教材の開発と評価</p> <p>本研究では、これからの工業化・情報化が進展する社会において、「持続可能な開発」を担う健全な青少年育成の一環として、環境学習ゲーム教材の開発・評価を行う。具体的には、申請者らがこれまでに開発してきた里山自然環境についての理解を支援する環境学習ゲーム教材をベースに、生徒らが「持続可能な開発」についての考えを深めるための新しい機能を実装する。それとともに、改良したゲーム教材を実際の中学校の授業に導入することで、その環境学習支援への有効性を検証する。</p>	<p>出口 明子 宇都宮大学教育学部准教授</p>	90
<p>子ども理解のための包括的な評価プログラムの開発</p> <p>近年、学習障害や注意欠陥多動性障害などの発達障害についてよく知られてきた。知的機能は低くないが生活に困難があることが多く、そのため普通学級に在籍しながら個別の指導が受けられる通級指導教室に通う児童が増えている。子どもの健全な成長発達を支援するためには、子ども個人の現状や特性をよく理解し、その特性に応じた指導、教育支援をアセスメントしていく必要がある。本研究では、発達障害児童の困難さと深くかかわる実行機能について、より包括的にアセスメントできる評価プログラムを開発する。</p>	<p>瀬戸山 志緒里 国立精神・神経医療研究センター病院 科研費心理療法士</p>	80
合 計	6 件	500 万円

Ⅱ－２．市民活動支援

1．募集・応募・選出状況

第31回(2015年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- | | |
|--------------|--|
| (a) 対象活動 | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動
①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯
④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域 | 広島県、山口県 |
| (c) 支援期間 | 単年度支援 2015年4月1日～2016年3月31日の1年間 |
| (d) 支援金総額 | 800万円 |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円 |
| (f) 募集期間 | 2014年10月15日～2015年1月13日 |

(2) 応募状況

締切日までに98件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | |
|---------|---|
| (a) 地域別 | ・広島県 28件(29%)
・広島市 46件(30%)
・山口県 24件(33%) |
| (b) 分野別 | ・自然とのふれあい 15件(16%)
・ボランティア育成 14件(14%)
・地域連帯 55件(56%)
・エコ 5件(5%)
・国際交流・協力 5件(5%)
・科学体験・ものづくり 4件(4%) |

(3) 支援対象の選出

選考委員会(2015年2月23日、24日開催)での審議の結果、支援候補として、総計30件800万円が選出され、2015年3月18日開催の第20回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2015年4月20日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の22団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2015年4月22日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の8団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	本年度(第31回) 2015年度	第30回 2014年度	第29回 2013年度
応募件数 (件)	98	110	100
支援件数 (件)	30	39	31
支援比率 (%)	31	35	31
支援金総額 (万円)	800	1000	800

(地域別状況)

地 域	2015年度		2014年度		2013年度	
	応募	支援	応募	支援	応募	支援
広島県 (件)	28	8	33	13	41	11
広島市 (件)	46	14	48	16	36	13
山口県 (件)	24	8	29	10	23	7
合計 (件)	98	30	110	39	100	31

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分 野	2015年度		2014年度		2013年度	
	応募	支援	応募	支援	応募	支援
自然とのふれあい (件)	15	6	22	6	22	5
ボランティア育成 (件)	14	2	13	5	12	5
地域連帯 (件)	55	16	50	21	39	12
エコ (件)	5	3	4	1	6	1
国際交流・協力 (件)	5	1	9	2	12	4
科学体験・ものづくり (件)	4	2	12	4	9	4
合計 (件)	98	30	110	39	100	31

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

3. 第31回(2015年度) マツダ市民活動支援一覧 -青少年健全育成関係-

活 動 名	団 体 名	地 域	金額 (万円)
再非行と非行防止、青少年の健全育成のための活動	食べて語ろう会 (副代表 田村 美代子)	広島市	20
防災教育を進め備えよう	防災教育を進める北小と地域の会 (府中北小学校 校長 後藤 ひとみ)	広島県 安芸郡	46
ホテル飛び舞う本郷川 ～地域と共に 地域で学ぶ 今津っ子～	今津にホテルを増やし隊 (今津小学校 校長 石井 秀司)	広島県 福山市	25
自分がすき、学校がすき、地域がすき そして田島の自然が大すき	見たい・知りたい・内浦探検隊 (内浦小学校 校長 田口 恵子)	広島県 福山市	30
カンナがつなぐ 平和のバトン -カンナ プロジェクト	広島市立大州小学校 カンナプロジェクト (教頭 増田 紀美)	広島市	20
地域住民と児童で多様性ある河川にする活動	正木地区ホテルの里復元会 (会長 世羅 宏二)	広島市	30
子どもたちに「生きる力」をつける「六区子ども塾」	大野第六区子どもの居場所づくり委員会 (委員長 青木 健夫)	広島県 廿日市市	20
彩が丘団地「元気ベンチ」プロジェクト	広島市佐伯区彩が丘連合町内会 (連合町内会 会長 雨瀧 弘和)	広島市	30
東城応援隊 (地域おこしボランティア活動)	まちなみ保存振興会 (東城応援隊) (会長 横山 和明)	広島県 庄原市	25
ぎおん遊び隊	祇園まちづくりプランプロジェクト (代表 安岡 志之夫)	広島市	25
小中高生およびその保護者を対象としたミニミニ外国体験イベント	NPO法人 ミニミニ外国in広島 (理事長 宮井 ふみ子)	広島市	30
ひろしま子ども議会2015 ～ひろしまの未来を考えよう～	一般社団法人 広島青年会議所 子供の自立育成委員会 (委員長 庄子 佳宏)	広島市	25
夏休みこども保養キャンプ「ひろしま7日間冒険の旅」	広島県シェアリングネイチャー協会 (理事長 住吉 和子)	広島県 廿日市市	25
次世代リーダー育成「将来の夢を描くドリームマップ」を作ろう！in HIROSHIMA	一般社団法人 ドリームマップ普及協会 広島支部 (広島支部代表 田岡 美江)	広島市	20
障がい児・者を対象とした、音楽療法グループ“ピリカ”	音楽療法グループ ピリカ (石井 明子)	広島市	20
湯来こども探検隊	湯来のまち再生プロジェクト協議会 (会長 武田 真哉)	広島市	20
体験しながら学ぶ、ソーシャル・スキル・トレーニング (SST) 活動	クローバーの会(発達障がい児を持つ親の会) (代表 村主 裕子)	広島市	25
自然体験・科学研究支援事業	広島干潟生物研究会 (会長 川端 信之)	広島市	31
中学生・高校生の能楽塾	たつじんくらぶ (代表 吉原 通庸)	広島市	35
ぐるぐる島ペインティングプロジェクト -島の地域資産を活用した島の未来を担う人材教育-	ぐるぐる海友舎プロジェクト実行委員会 (役員 谷村 仰仕)	広島県 江田島市	46
2015 あきおた国際音楽祭 with Bechstein	あきおた国際音楽祭 実行委員会 (代表 中川 圭子)	広島県 山県郡	25
自転車文化の創造を担う大学生・高校生を対象とした次世代リーダー育成プログラム	ひろしま輪輪プロジェクト (代表 小路 泰広)	広島市	20
光と森のカーニバル	NPO法人 LOVE ECO周南 (理事長 福田 陽一)	山口県 周南市	30
おごおりウィークエンドアドベンチャー	おごおりウィークエンドアドベンチャー実行委員会 (委員長 高橋 則彦)	山口県 山口市	25
学校・地域・ちびっこが奏でる 三つ巴のハーモニー!!!	遊巢の里 (代表 新庄 菊子)	山口県 岩国市	25
三世代ふれあいの活動	右田教育会 (会長 岡本 利行)	山口県 防府市	25
創作神楽「斉熙公と国の春」による青少年健全育成	創作・風鎮神楽会 (代表 清水 功一)	山口県 防府市	30
虹の鯉のぼりプロジェクト	浅江まちづくりの会 (代表 矢部 東洋司)	山口県 光市	20
次代を担う子ども育成プロジェクト 幕末体験「育英塾」	幕末体験「育英塾」実行委員会 (会長 椋 晶雄)	山口県 萩市	20
夢サポート ながとリーダー養成講座	夢サポート ながとリーダー養成講座実行委員会 (実行委員長 藤本 憲司)	山口県 長門市	32
合 計	30件	800万円	〔 広島県 22件 593万円 山口県 8件 207万円 〕

Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

感動塾・みちくさの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、平成10年度から実施しています。

(2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

(3) 開催場所・開催日等

① 広島市三滝少年自然の家

・2015年8月18日～8月20日

・テーマ：「ふしぎ 発見 感動体験～自然(光)とエネルギー～」

・ねらい 実験、工作などの直接体験をする。

科学の楽しさや不思議さを探求し、発見や感動を獲得する。

課題解決へ向けてのプロセスを大切にし、問題解決能力を身に付ける。

異年齢集団における生活の中で、仲間との協力や、協調することの大切さを学ぶ。

・参加者：小学4～6年生 48名

② 広島市青少年野外活動センター

・2015年8月21日～8月23日

・テーマ：「身近なエネルギー(再生可能エネルギー)で遊ぼう(体感しよう)!!」

・ねらい 実験や観察を通して、身のまわりの自然の事物・現象についての実感を伴った理解を深め、理学的分野への興味や関心を喚起し、探究する力や創意工夫する力を育てる。

豊かな自然に親しむことで、新たな感動や発見を味わうとともに、2泊3日の活動を初対面の人たちと友情を深めながら過ごすことで、協調性を養う。

・参加者：小学3～4年生 56名

③ 広島市似島臨海少年自然の家

・2015年9月19日～9月21日

・テーマ：「環境・生物多様性」

・ねらい 子どもたちの理科離れが進んでいるため、周囲の自然に目を向けさせ、理科への興味・関心をもたせる。

集団行動をとることが苦手な子どもたちが増加しており、集団生活において必要なコミュニケーション能力を育てる。

・参加者：小学4～6年生 45名

(4) 実施額

100万円(マツダ財団負担分)

Ⅱ-4. スタートラインプロジェクト

スタートラインプロジェクトの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「スタートラインプロジェクト」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」（緊急避難場所）および「はばたけ荘」（自立援助ホーム）を開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、活動基盤の充実等を支援する事業を、平成25年度から実施しています。

(2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

(3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行った。

① 被虐待児等の成長を支援するプログラム

- ・実施概要：「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、マネー講座、図書購入、就業活動のための費用支出、自立支援のための支出、誕生会やクリスマス会などの行事の開催などを行った。
- ・対象者：今年度の「ピピオの家」の入居者 5名、「はばたけ荘」の入居者 6名

② スタッフの能力開発を支援するプログラム

「第6回NPO法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」

- ・実施概要：スタートラインプロジェクト実行委員会（ピピオ子どもセンター・マツダ財団）として、以下のとおり共催した。

2015年6月 3日	ガイダンス及びボランティア体験報告
2015年6月10日	居場所のない子どもたちとの関わり方
2015年6月17日	虐待が及ぼす子どもへの影響
2015年6月24日	発達障害をもった子どもに対する対応
2015年7月 1日	シェルターに関わる法制度（民法、児童福祉法、など）
2015年7月10日	性被害や性虐待を受けた子どもの支援
2015年7月15日	思春期の子どもの心理
2015年7月22日	「ピピオの家」「はばたけ荘」って、どんなところ！

- ・参加者：一般 12名、大学生 3名、現スタッフ1名の計16名が受講。

このうち15名が全8講を修了し、さらにこのうち10名が、相談・面接を経て、ピピオのボランティアスタッフとして登録した。

その他、ピピオ子どもセンターの実施する以下の活動を支援した。

- 2015年10月10日～11日 子どもシェルター全国ネットワーク会議2015（名古屋）への参加
- 2015年11月20日～21日 日本子どもの虐待防止学会（JaSPCANにいがた）への参加

③ 活動基盤の充実（広報活動の充実、普及活動等）

「NPO法人ピピオ子どもセンター設立5周年記念シンポジウム

－居場所のない子どもたちのスタートラインづくりのために－（入場無料）

・実施概要：ピピオ子どもセンターとマツダ財団の共催で、以下のとおり実施した。

日時：2016年1月24日、13：30～16：40

場所：広島弁護士会館3階ホール（広島市中区上八丁堀）

主催：NPO法人ピピオ子どもセンター、公益財団法人マツダ財団

後援：広島弁護士会

来場者：70名

内容：

第1部 活動紹介・講演

- ・NPO法人ピピオ子どもセンターの活動の歩み
- ・スタートラインプロジェクト活動報告
- ・講演「子どもが生きていくことを支えるケア～小規模施設における統一的ケアの必要性」

広島国際大学医療福祉学部准教授 岡本 晴美 氏

第2部 パネルディスカッション

登壇者

西崎 宏美氏（NPO法人子どもシェルターモモ副理事長、チャイルドラインおかやま代表）

岡本 晴美氏（広島国際大学医療福祉学部准教授）

清水 克之氏（広島文教大学人間福祉学科准教授、元広島県東部こども家庭センター職員）

鶴野 一郎氏（NPO法人ピピオ子どもセンター理事長、弁護士）

コーディネーター 平谷 優子氏（同センター理事、弁護士）

(4) 実施額

100万円(マツダ財団負担分)

Ⅱ－５．第３４回講演会

青少年健全育成事業の一環として毎年講演会を実施しています。本年度は講師にジャーナリスト・東京工業大学リベラルアーツセンター教授の池上 彰氏を迎え、「学び続ける力」と題して開催しました。講演の案内は県・市の教育委員会やPTAへ行い、また新聞・ミニコミ誌等を通じて広く聴講希望者を募りました。

当日は、あいにくの小雨模様でしたが、1,400名のお客様にご来場いただき、会場はほぼ満席となりました。池上氏は、最近の世界情勢に関するニュースを皮切りに、各地で止まぬ紛争、その背後にある歴史、政治、宗教等の関係について、分かりやすく解説されました。また、過酷な環境にあっても、夢を叶えるために「教育を受けたい」「学びたい」と切望する子どもたちが、世界には数多く居ること、誰もが基本的な教育を受けることの重要性、いくつになっても知的な好奇心と学ぶ意欲を持つことの大切さにも言及されました。

来場者からは、「当たり前だと思っていたことが有り難く感じられました。」「知的な好奇心の話聞き、学ぶ意欲がますます高まりました。」といったお声を多数お寄せ頂き、大いに満足していただけたものと推察しています。

講演会の概要は、次のとおりです。

- (1) 講 師： 池上 彰氏（ジャーナリスト・東京工業大学リベラルアーツセンター教授）
- (2) 演 題： 学び続ける力
- (3) 開 催 日： 2015年11月25日(水)
- (4) 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- (5) 聴講者数： 1,400名

II-6. 大学寄付講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかい社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

(1) 対象学生と目的

- ①工学系学生 (今年度開講なし) 近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点(環境・情報・国際化・技術者倫理等)について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。
- ②人文系学生 社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかい社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

(2) 特徴

- ①複数の協力機関からの講師陣
- ②キーワードによる講義の一貫性の保持
- ③大学毎の特徴づけ
- ④学生と講師の双方向授業

(3) 実施講義

実施内容は、以下のとおりです。

大学名	講義科目	期間	講師所属機関	特徴	開講年度
安田女子大学	現代社会と人間B ボランティア活動	2015 5.23, 5.30 集中講義 夏休み実習	<ul style="list-style-type: none"> ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART 学生ボランティア団体「OPERATION つながり」 比治山大学 (特活)ANT-Hiroshima ひろしままちづくりファシリテーターズ 	広島県内単位互換科目。講義と実地研修とを組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。14名が4箇所の事業所や団体でボランティアとして活動した。	2000年

この他、以下の講座へ講師派遣を行いました。

広島大学「コミュニケーション能力開発講座(ディベート演習)」

広島大学 医工連携人材育成研修「イノベものづくり士」(商品企画概論)

県立広島大学・庄原キャンパス「キャリアビジョン」(グローバルビジネスと商品企画)

県立広島大学・広島キャンパス「キャリアビジョン」(グローバルビジネスと商品企画)

尾道市立大学「キャリア形成入門」(大手製造業の業務内容と実態)

II-7. その他の活動

マツダ財団は、科学技術の振興および青少年の健全育成分野の公益目的事業に取り組んでいます。取り組みにあたっては、公益の増進および活力ある社会の実現を目指し、既存事業の改革や新規事業の提案ができるよう、社会情勢の変化や社会課題に留意するよう心掛けています。

今年度、青少年の健全育成分野において“若者自立支援”をテーマとして取り上げ、新規事業化も見据えながら各方面からの助言を頂くために、有識者および若者等との意見交換、情報収集・分析・発信等を、以下のとおり実施しました。

なお、当活動の一部は、若者の問題に精通された有識者であり、かつ、本件の問題意識に最も近い研究者である、吉備国際大学 社会科学部 准教授 響田竜蔵氏への委託研究とし、研究を通じたご助言・ご支援を頂きました。

(1) 内容

若者自立支援の実施へ向けての調査・研究

・インタビュー調査（担当：響田竜蔵 准教授）

2015年4月～（通年）府中町、三次市を中心に、質的調査（インタビュー）を実施。累計約60名。

・学会・研究会等での報告（担当：響田竜蔵 准教授）

2015年7月 『「広島20-30代住民意識調査」報告書（統計分析篇）』刊行。

2015年7月 『「広島20-30代住民意識調査」報告書（統計分析篇）』報告会を三次市役所と府中町役場で開催。

2015年7月 研究会開催（於 甲南大学、主催 甲南大学准教授 阿部真大氏）。

2015年8月 JILPT（労働政策研究・研修機構）にて報告。

2015年8月 関西家族社会学研究会（KAFS）にて報告。

2015年9月 青少年研究会（於 日本大学）にて報告。

2015年11月 日本学術会議・JILPT 共催シンポジウム「移動する若者／移動しない若者」にて報告・パネリストとして登壇。

2016年3月 山形大学「地方都市研究会」（山形大学准教授 貞包英之氏）のシンポジウムにて報告・パネリストとして登壇。

・事業化検討（担当：マツダ財団）

マツダ財団主催で、事業化検討の材料とするための意見交換会を開催

2015年11月30日 府中町で若者と語るイベント「広島の若者についてディスカスしよう in 府中」（於 府中町、児童センターバンビーズ）を実施。

2016年2月21日 三次市で若者と語るイベント「広島の若者についてディスカスしよう in 三次」（於 三次市、みよしまちづくりセンター）を実施。

Ⅲ. 管理事項の概要

Ⅲ-1. 役員等に関する事項

1. 平成28年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	金 井 誠 太	マツダ株式会社 代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社 執行役員・総務・法務室長
常務理事	業務執行理事	常 勤	魚 谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 冏	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	岡 谷 義 則	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	高 橋 超	広島大学 監事
理 事		非常勤	浜 中 典 明	公益財団法人広島市文化財団 常務理事
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学大学院工学研究院 特任教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士
監 事		非常勤	藤 本 哲 也	マツダ株式会社 執行役員・財務本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター 特任教授
評 議 員		非常勤	越 智 光 夫	広島大学長
評 議 員		非常勤	小 柴 是 睦	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	佐 野 庸 治	広島大学大学院 工学研究院長
評 議 員		非常勤	進 士 正 人	山口大学大学院 理工学研究科長・工学部長
評 議 員		非常勤	竹 林 守	マツダ株式会社 名誉相談役
評 議 員		非常勤	中 村 健 一	県立広島大学長
評 議 員		非常勤	長尾 ひろみ	公益財団法人広島県男女共同参画財団 理事長
評 議 員		非常勤	農 沢 隆 秀	マツダ株式会社 技術研究所 技監
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学 副学長
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 相談役

(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

- ・浅原 利正氏及び杉本 俊多氏は平成27年6月24日評議員を退任し、越智 光夫氏及び佐野 庸治氏が平成27年6月24日評議員に選任された。
- ・金井 誠太、吉原 誠、上田 宗冏、岡谷 義則、平谷 優子、高橋 超、山根 八洲男の7氏は、平成27年6月24日理事に再任された。

Ⅲ－２．職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 長	魚 谷 滋 己	・事務局統括
事務局 長代理	佛 圓 哲 朗	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局 長代理	永 松 貴 文	・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
総務課 長	世 良 和 美	・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
事務局	浅 原 真 実	・財務・会計に関する事項 ・講演会開催に関する事項

* 浅原 真実（事務局）は平成27年8月 1日付で就任した。

Ⅲ－３．理事会・評議員会等、主な活動事項 (理事会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 2 1 回理事会	平成27年6月3日	第1号議案 平成 2 6 (2014)年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補 7 名推薦の件 第3号議案 第 9 回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1)2015年度科学技術振興関係事業助成の件 2)職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 2 2 回理事会	平成27年6月24日	第1号議案 代表理事選定の件 第2号議案 理事長及び専務理事選定の件 [報告事項] 公益法人の事業報告書等の提出書類	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 2 3 回理事会 (決議の省略)	平成27年9月25日	第1号議案 第 3 1 回(2015年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第 3 2 回(2016年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 2 4 回理事会	平成28年3月16日	第1号議案 平成 2 8 (2016)年度事業計画及び収支予算承認の件 第2号議案 第 3 2 回(2016年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 第3号議案 諸規程の改定及び制定の件 [報告事項] 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 9 回評議員会	平成27年6月24日	第1号議案 平成 2 6 (2014)年度決算承認の件 第2号議案 理事 7 名選任の件 第3号議案 評議員 2 名選任の件 [報告事項] 1)平成 2 6 (2014)年度変更収支予算の件 1)平成 2 6 (2014)年度事業報告の件 2)平成 2 7 (2015)年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 – 上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第31回マツダ事業助成候補の募集	平成 27.4～5	科学技術振興関係
第31回マツダ研究助成候補の募集	27.4～5	科学技術振興関係
第31回(2015年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈	27.4～6 27.4.20、4.22	青少年健全育成関係 助成30団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催	27.7.13、9.7、12.15 28.1.20	広島大学との連携事業
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	27.5.24、6.15、8.19 11.22、12.20、28.2.14	広島大学との連携事業
科学わくわくプロジェクト「小学校理科ひろば」 大学講義(安田女子大学)	通年 27.5.23、5.30	授業実践講座または模擬授業 「ボランティア活動」(広島県内単位互換科目)
平成27年度選考委員会(科学技術振興関係)	27.7.24、7.25	第31回マツダ研究助成対象の審議・選出
平成27年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	27.7.31	第31回マツダ研究助成対象の審議・選出
「感動塾・みちくさ」実施	27.8.18～8.20 8.21～8.23 9.19～9.21	(公財)広島市文化財団と共催
第31回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	27.10～11	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第32回(2016年度)青少年健全育成市民活動支援候補 の募集	27.10～28.1	広島県、広島市及び山口県の青少年健全 育成主管部門等を通じて告知
第34回講演会	27.11.25	講師：池上 彰氏 演題：「学び続ける力」
平成28年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	28.2.15、2.16	第32回市民活動支援対象の審議・選出

Ⅲ－４．所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成27.6.30	事業報告等の提出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成27.7.13	理事変更の届出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成28.3.25	事業計画書等の提出

Ⅲ－５．登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	平成27.7.2	理事・評議員の変更登記 ・平成27年6月24日 下記7氏 理事を重任 金井 誠太、吉原 誠、上田 宗尙、岡谷 義則、平谷 優子、 高橋 超、山根 八洲男 ・平成27年6月24日 下記2氏 評議員を辞任 浅原 利正、杉本 俊多 ・平成27年6月24日 下記2氏 評議員に就任 越智 光夫、佐野 庸治

Ⅲ－６．附属明細書

平成27年度(2015年度)事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項にて規定される「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、附属明細書は作成しない。